

①野菜作り・庭づくり

目的

- ・利用者同士の交流を図る
- ・庭作りを通し、戸外あそびの楽しさを知る
- ・野菜や植物に興味をもつ
- ・利用者と一緒に遊ぶ環境を整える。

内容

- ① ミニトマト・ピーマン・パプリカをプランターで栽培する
- ② 里芋の栽培を通し、葉の大きさや水が落ちる観察を楽しむ
- ③ 花苗植え・花壇づくり、お庭づくり

活動報告

【野菜づくり】

- ・野菜苗の植え付け

3月下旬 里芋種植え

4月上旬 ミニトマト、ピーマン、パプリカの苗を植える。

6月～8月 苗植え後、子どもたちと観察を楽しみ、水やりを一緒に行う。

実が熟したらその都度収穫した。

今年は気温の高い日が多く、お庭で遊べない日は、スタッフが水やりをした。

6月～11月収穫

実が大きくなったらその都度収穫する。

長雨や猛暑のため収穫できない時はスタッフが収穫し配布した。(ミニトマト)

工夫したこと

ソーレ…苗の種類を大きなパネルにして、プランターにつけた。プランターを置く場所を
入り口横にし、行き帰りにでも目に留まるようにした。

マーレ…外に出づらい乳児の母も気軽に観察ができるよう、室内で野菜の端切れを使った
水耕栽培を行った(人参・大根・ねぎ・豆苗)

里芋用のペットボトルを用意して、葉っぱの水遊びが楽しめるよう工夫した。

【花苗植え・花壇づくり・お庭づくり】

- ・花苗植え・花壇づくり

5月下旬 市から配布の花苗植え(マリーゴールド、トレニア)

10月上旬 市から配布の花苗

- ・お庭づくり

4月下旬 「パパといっしょに」親子で庭の石拾いを行った。

5月下旬 「パパといっしょに」親子で庭の石拾いを行った。

庭に植えてある実のなる木に名前と花、実の写真を木につけた。(かりん・キウイ・びわ)

※「パパといっしょに」はソーレの活動

考察

(ソーレ)

- ・ミニトマトは、気温が高かったからか、生育が悪く苗は細く実も小さいものだった。水やりは、利用者の年齢が低くあまりできなかったので、スタッフがほぼ毎日水やりをした。
- ・パプリカは、緑色になってから色づくのでその間に、一部茶色くなってしまった。2、3個目も同じようになってしまった。
- ・ピーマンは、小さいながらも数個の収穫があった。
- ・石拾いを「パパといっしょに」の催しで行ったので、親子で楽しみながら拾ってもらえた。
- ・草取りは、毎朝スタッフで行っていたので、きれいに保てていたが、35度以上の外気温のころからは、できなくなった。

(マーレ)

- ・ミニトマトは昨年と同じ時期に苗植えをしたが、今年は観察をしながら5人ほど収穫をすることが出来た。実も大きくたくさん収穫でき、8月中旬まで実が付き配布することが出来た。
- ・里芋は昨年も好評だったが、今年も葉の上に水を乗せてコロコロ楽しむ親子が多く、毎年続けていこうと思う。
- ・草取りは出勤のスタッフで声かけあって行う予定だったが、猛暑のため思うように進まなかった。

②プレママパパ事業

目的

妊娠期から産後・育児期へ切れ目のない支援

- ・プレママパパへ産まれる前から支援センターを知ってもらい利用へとつなげる。
- ・子どものいる環境を感じながら先輩ママパパとの交流を図り赤ちゃんのいる生活を知ってもらう。

内容

- ・おたよりやポスター・しおりから子育て支援センターがどんな所か知ってもらう。
- ・プレママパパ見学会を行う。
 - ① 先輩ママとの交流で、妊娠時の過ごし方や出産のための心構えを知ることができる。
 - ② 赤ちゃんの様子を見ることで、赤ちゃんの発達の道筋を知ることができる。
- ・保健センターで行われているプレママパパ塾にスタッフが出向く。

活動計画

◎おたよりを配布、ポスター掲示を依頼する

- ・『プレママプレパパのみなさまへ』と題して、保健センターに依頼し配布する。プレママパパの目によりとまるように、母子手帳に挿むのではなく「伴走型支援相談のお知らせ（妊娠8ヶ月アンケート）」に同封していただく。
- ・保健センターと霞澤産婦人科へポスター掲示とチラシ置きを依頼し持参する。

◎プレママパパ見学会の開催

- ・0歳児講座（4・7・12月）の日に見学会を開き、先輩ママやパパとの交流を図る。

【事前準備】

- ・プレママパパ見学会のチラシ、アンケート用紙、先輩ママパパからのアドバイスボード作り。
- ・保健センターで行っているプレママパパ塾に出向き、チラシを配りお誘いする

【見学会】

- ・参加者・・・第1回目 0人 第2回目 3組4名
- ・終了後アンケートを記入…ママパパの想いをくみ取り、話を聞いて今後活かしていく。

◎プレママパパ塾に出向く

- ・保健センターで毎月行われているプレママパパ塾にスタッフが出向き、プレママパパと交流し支援センターをPRする。チラシを手渡し、顔を合わせることで次へつなげる。

考察

今年度初の取り組みとして、プレママパパ見学会の開催、保健センターのプレママパパ塾にスタッフが出向いた。事前に顔を合わせ案内したことで、その後の見学会に参加された方もいた。参加者がマーレ近くにお住まいでマーレに来やすかったという事もあったようだ。見学ができることの周知に努め多くの方が足を運んでもらえるよう継続していきたい。見学者と話をすると、出産前に保育園申請を考えなければ等と悩みも見えてきた。情報を得る1つの場としての周知もしていきたい。

プレママパパ見学会を赤ちゃんのつどい後に行うことによって、先輩ママパパが話しやすい雰囲気を作ってくれプレママパパにも良い影響が出たと思う。

新規事業として取り組んできたことが発展し成果が顕れてきた。

③子育て情報発信「かべ新聞 ひだまり」

目的

- ・利用者が求めている情報や資源を身近な方法で発信する
- ・利用者の持っている情報を引き出す

内容

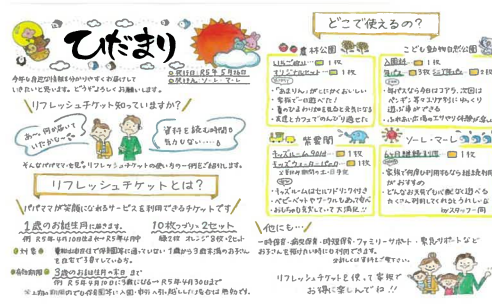
- ・祖父母に向けての情報の提供
- ・ママやパパに向けての情報の提供（子育て以外の情報も含む）
- ・スタッフが気づいたこと等の記載

活動報告

【R5年度 発行報告と記載内容】

- ・5月26日 vol.18 発行
「リフレッシュチケットとは」
利用者からの「リフレッシュチケットをなかなか使い切れない」という声をもとにリフレッシュチケットとはどういうものなのかを分かりやすく実例を交えて紹介。掲載後「チケットを使って遊びに行きました」との声をたくさんいただく。
- ・9月15日 vol.19 発行
「プレ保育、満3歳クラスについて」
毎年利用者から質問の多いプレ保育や満3歳児クラスについて、違いや特色を分かりやすく紹介。プレ保育や入園について考え出す利用者の多い時期に合わせ発行したことで、手に取り読む姿をたくさん見かけた。
- ・2月下旬 vol.20 発行予定

Vol.18 リフレッシュチケットとは



Vol.19 プレ保育・満3歳児クラスについて



【活動の基本方針】

- ・日々の関わりの中から、利用者の疑問や質問等の声をテーマにした特集
- ・利用者から教えてもらった子育てのヒントや知らせたいことなど身近な内容を拾い上げ了解を得たうえで掲載
- ・スタッフが日々の関わりの中で感じたことや利用者に伝えたいことを掲載
- ・祖父母の孫育てを応援する意味も含め、祖父母の声も反映していく
- ・特集は利用者の声を参考にしながら決めていく

令和5年 新規事業 みんなで作ろう支援センター

【利用者とスタッフが子育ての楽しみや悩みを共感するための取り組み】

- ・常に利用者の言葉に耳を傾ける
- ・かべ新聞が身近な存在となれるように情報の発信や話題の提供をする
- ・アンケートに協力してもらう
- ・レイアウトの工夫（記載方法や写真・イラストや色彩など）

考察

- ・下書きから発行までの工程を見直したことでよりスムーズに編集ができたが、打ち合わせの時間をもう少し確保できるように努めたい。
- ・「毎号楽しみにしている」「ほかのママたちの声や知りたい情報が分かって助かる」との声もあり、情報誌が身近な存在になっていると実感でき励みになっている。
- ・今年度は発行回数を減らし、特に伝えたい情報をテーマに選ぶことにした。
そのことで、より身近な情報を提供することができ紙面を持ち帰って読む姿やその後の様子をスタッフに報告する姿があった。
- ・情報誌を通して、来館者とスタッフの会話が増えるきっかけにもなっていた。

④リサイクル交換会

目的

- ・先輩ママのボランティアとの交流、交換会開催準備を通して交流を図る。
- ・まだ使える子育て用品を持ち寄り、他の方が譲ってもらうことでSDGsを感じてもらう。

内容

- ・家庭で不要になった子ども用品を集め、リサイクル交換会を行う
- ・卒館児の母に声をかけ事前準備、当日のサポートなどボランティアを依頼。先輩として利用者
と交流をしてもらう。
- ・0歳児集まれのサークル活動として準備から参加してもらう。支援することを体験してもらう。

活動報告

- 6月中旬 ・チラシを掲示し、リサイクル用品を募る（月末まで）
- ・交換会参加募集のチラシを掲示→26日から申し込み開始
 - ・仕分け作業開始（0歳児集まれサークルメンバー4人・先輩ママ2人）
 - ・ポップづくり（0歳児集まれサークルメンバー4人）

7/10(月)リサイクル交換会 10:30～ 5組 11人参加

- 託児・お手伝いボランティア…先輩ママ2人、パートスタッフ1人
- ・募集は①10:30～②10:45～ 各10組
- ・参加者は事前の持ち込みを含め、1人1品以上持参を参加条件とした
- ・1人につき衣類10点を選んでもらう

おもちゃなど大きいものは希望制にして、人気の品は抽選とした

11(火)「赤ちゃんのつどい」講座終了時に展示し、希望者に持ち帰ってもらう

- ・残りのものはホールに展示し、自由に持ち帰ってもらった（8月まで展示）
- ・乳幼児の衣類、おもちゃ、ベビー用品は主任児童委員の方を通じて援助している出産を
控えた方へお渡ししてもらった
- ・残った冬物の衣類、おもちゃ類は次回に備えて保管する

考察

- ・参加申し込みは2枠の予定だったが、結果的に10時30分からの1枠のみ行った。
参加者が少なく残念だったが、初めての試みだったので余裕をもって行うことが出来た。
30分の時間内で参加者もゆっくり選べてよかったと思う。
 - ・先々、子育て中のママ主体の活動になればいいなどの思いから、昨年度の0歳児集まれ講座（全5
回）のママにもお手伝いをお願いした。子どもと一緒に準備をしてもらったが、ママ同士話をしながら
楽しい活動になったと思う。
- 今年3月に卒館したお子さんのママも活動を楽しんでくれた。終了後には「またお手伝いできる
ことがあれば誘ってください」と嬉しい言葉をいただいた。今回はグループごとの活動だったが、
縦のつながりや交流が広がることを期待したい。

令和5年 新規事業 みんなで作ろう支援センター

- ・リサイクル交換会後に、いろいろな形でリサイクル品のお渡しが出来た。保管場所が限られているので、次回に残さない工夫が出来たと思う。
- ・今回行ってみて、次回に向けての課題も見えてきたので検討しながら続けていきたい。

令和5年 新規事業 みんなで作ろう支援センター

⑤地域のあそび場訪問	
目的	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域あそび場の活動の様子を知る ・ 地域あそび場で活動している子育てにかかわる方々との交流を深める 	
内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域あそび場の活動日に参加し、子育てに関する情報を共有する 	
活動報告	
<p>4月21日（金）ほっこりカフェ・・・若松公会堂にてボランティアとして参加</p> <p>5月17日（水）ぶらんこ・・・平野地区活動センターにてボランティアとして参加</p> <p>5月24日（水）スマイルカフェ・・・野本コミュニティセンターにて見学 コアラ・・・高坂丘陵活動センターにて参加</p> <p>6月13日（火）きらめきすまいるカフェ</p> <p>6月14日（水）ポラリス</p> <p>7月13日（木）ほっこりカフェ・・・若松公会堂にて水遊びなどの見学</p> <p>8月23日（水）ぶらんこ・・・平野地区活動センターにてお祭りに参加 ソーレの手作り玩具の貸し出し</p> <p>10月18日（水）ふたごちゃんあつまれ・・・遠足のお手伝い</p>	
考察	
<p>あそび場の訪問で得られること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各あそび場を見学することでソーレマーレ利用者へあそび場の様子を伝えることができる ・ 各あそび場で活動されている方々と交流を深めることで、情報交換等を行うことができる ・ 各あそび場を利用しているソーレマーレ利用者と共通の話題を持つことができる <p>ソーレマーレで地域のために何ができるか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの遊び場の困りごとや求めるものを知り、解決に向けて話し合いや交流の場を設ける ・ 自主サークルが全くなり、サロンの勢いが減ってきたなか、地域交流を深めるためにソーレマーレを軸に子育て支援拠点の仲間や公的機関ともつながる場を提供していく 	